

THE RACING PIGEON
2023
FEBRUARY
Vol.767

レース鳩 2



令和4年度 協会タイトル特集 第7弾!

第76回 全国レース鳩品評会 総合ベスト3公開!
2022年度「菊花賞レース」連合会優勝鳩舎発表
令和4年度「楓賞レース」各地区優勝鳩舎&優勝鳩紹介
特集 / 協会作出鳩 特別頒布 限定30羽!



22年度 八郷国際委託鳩舎 アベレージレース協会賞全国1位

“ネオ・ミリオン” 21EM01854 B ♀ 鹿島兄弟鳩舎・石川誠二鳩舎共同作
鹿島兄弟鳩舎(神奈川県)・川崎連合会)委託

22年八郷国際委託鳩舎 国際チャンピオン 900K118 羽中 6位(分速 275.611m・4日目)
オリエンタルカップ 700K285 羽中 88位(分速 684.713m・2日目)
国際親善鳩レース大会 500K485 羽中 25位(分速 1,224.868m)

*“ミスターシービー号” (*優勝3回、川崎連合会初代銘鳩賞) 近親

紙の鳩

「ミスターシービー号」から「ネオ・ミリオン」へ 「継承と甦りの物語」がここに!

川崎連合会の伝説的銘鳩、ここに甦る!

ここに甦る!

川崎連合会には地元鳩界に隆盛をもたらした「伝説的銘鳩」が複数羽存在する。鹿島兄弟(長男・勲、次男・悟、三男・信好)鳩舎の生み出した「ミスターシービー号」は、まさにその「先駆け」だ。79年生ま

れのこのオス鳩は、5000羽超の参加羽数までみた秋の中距離で総合シンガポ3回、かつ3年内入賞10回。連合会優勝は3回で川崎連合会60年の歴史の中でわずか2羽しか誕生していない「銘鳩賞」の初代に輝く。まさにスーパーAPだ。この規格外の翔歴を受け、ブラッドスポーツの法則は発動し、代々総合優勝鳩を輩出。中でも96年に果たした神奈川・中部稚内GN総合優勝は、鹿島兄弟鳩舎にとつ

て最大のハイライトであろう。一方、「ミスターシービー号」の血を譲った川崎連合会の仲間の下で次々と好成績が生まれ、現・連合会長で日本優秀鳩舎賞7回の強豪・石川誠二鳩舎のように系統として昇華させた者も。この影響力の大きさが前述の枕詞「伝説といわしめる所以だ」。

鹿島兄弟鳩舎は、「ミスターシービー号」の直系で19年の東日本CH・E地区優勝を制覇。これを最後の花道に翌秋で引退した。種鳩の全てを前述の石川鳩舎から連合会の仲間たちに託し、鳩とは無縁の生活を送る——はずだったのだが。住環境の問題で断念ということもあってか、明らかに未練であるう、レースシーズンになると鳩のことが頭に浮かび、しかも離れない。そこで彼らは委託という新しい道を選択した。引退からわずか3か月

後のことである。といっても種鳩は全て手放してしまっただ。そこで主力ブリーダーを多く託した石川鳩舎に作出の協力を仰いだところ快諾。鹿島3兄弟は「1000K」に夢とロマンを求めており、ゆえに委託先に八郷国際鳩舎を選んだ。彼らにとつて初のチャレンジであり、また連合会でも委託をしたことがあった者は、ほんのわずかしかなかった。そこで「川崎のトリ」が全国相手にどこまで通じるのかという純粋な探求にも生まれたようである。

そして委託2年目で早くも全国に名を轟かす成果が生まれた。国際鳩舎版・日本AP賞というべき「アベレージレース・協会賞」の全国1位に選出されたのである。鹿島3兄弟は、オリエンタルカップ終了時点で受賞のチャンスがあると察知

鹿島兄弟鳩舎(川崎連合会)

し、最終戦における最大のモチベーションとしていた。そして国際CH入賞の期日である4日目に帰還して逆転受賞。彼らが感動と歓喜に沸いたことは想像するにたやすい。

ワンフット版「日本一のレース鳩」に輝いた超天才「ネオ・ミリオン」。その父親は石川鳩舎作、母親が鹿島兄弟鳩舎作で、両親ともに1000K以上のCHだ。後者の自鳩舎作が「ミスターシービー号」の如くビッグサイズであるためか、子供も大きくてきやすく、うち直仔が前年の500Kで失踪している。そこで「委託用に小さく」と石川鳩舎にリクエストすると、「当人的には「小さなオスを相方に選択。「大×小」という配合式で作出を行った。あくまで結果論だが、翔歴的に「対国際CH」、そして「ミスターシービー号」のインブリードとなっていた。

昨年6月末、「ネオ・ミリオン」との再会が実現した。受賞鳩自身は小さく、パワフルな「伝説的銘鳩」と一見異なる鳩体である。ところが部位を一つ一つチェックしていくと、顔が全体の比率から比べて大きいところ、非常に軽いつつ、などなど系統的特徴が次々と見えてきたのだ。鹿島兄弟鳩舎は確信する。間違いなく「ミスターシービー号」の血——だ。また同席した石川鳩舎は、自身の「ミスターシービー系CH」で、かの宮下博氏も絶賛した「グレート幸乃乃」(98年神奈川ブロック連盟600K総合優勝)に酷似していると評価している。

鳩レースとは「継承と甦りの物語」である。このブラッドスポーツの神髄にして醍醐味を強く実感したとあって、彼らの鳩熱がさらに高まったことはいうまでもない。

22年度 八郷国際委託鳩舎 アベレージレース協会賞全国1位

- “ネオ・ミリオン” 21EM01854 B ♀ 鹿島兄弟鳩舎・石川誠二鳩舎共同作出 鹿島兄弟鳩舎委託 *翔歴は表紙参照
- “グレート本刺” 17EM01455 BW 石川誠二作翔 19年東日本稚内GN1100K連盟2位・1,106羽中総合65位
- “パーセン44” 16EM05244 B 石川作 純N&パーセン系 “ナルボンヌ”近親
- 10EM07933 BWP 石川作 “ミスターシービー号”(下掲)直系 “グレート勇氣” (02年神奈川ブロック連盟600K総合優勝)の娘孫/東日本CH1000K・E地区優勝
- “ビッグママ” 12EM06192 BC 鹿島兄弟作翔 13年東日本CH連盟27位、14年東日本CH連盟3位
- 05EM00648 B 鹿島兄弟作翔 05年菊花賞400K1,002羽中連盟3位
- “ミスターシービー号”(下掲)の直系
- 10EM08500 BC 白山正恵作 純D&マタイス “ラウドルップ”の直仔×D・ロタル娘

川崎連合会“初代銘鳩賞”—— “ミスターシービー号”

79KS3853 B ♂ 鹿島兄弟鳩舎 作翔 直系/Rg、地区N、CH、GN各総合優勝 東日本CHE地区優勝他



- 77HB0376 BCW 阿部明久作 アンドレ・テレーレ作× (アカルディ×ドルダン)
- 73PK0504 松岡英男 作翔 優勝3回 (シオン×津軽)×J・マタイス系

80年春オープン200K	3,759羽中総合18位・連合会5位
秋Rg	500K6,876羽中総合89位・連合会6位
CH	600K2,030羽中総合7位・連合会優勝
81年秋Rg	500K5,932羽中総合166位・連合会8位
82年秋CH	600K2,191羽中総合38位・連合会3位
83年秋Rg	500K7,539羽中総合4位・連合会優勝
CH	600K3,115羽中総合92位・連合会3位
連盟品評会スタンダードクラス一席	
84年秋SP	400K3,333羽中総合49位・連合会4位
Rg	500K5,466羽中総合2位・連合会優勝
85年秋Rg	500K5,067羽中総合106位・連合会5位

鹿島兄弟鳩舎(川崎連合会)